

### 3 地図を利用して地理事象の関連性に主題をおいた授業展開例

|  |   |   |                              |
|--|---|---|------------------------------|
| 教科(科目)   | 地歴(地理B)   | 単元名   | 世界の人口分布 本時( 1時間目 / 4時間)      |
| 本時の主題  | モンスーンアジアにおける稲作の重要性を考慮した人口稠密地域の分析  |   |                              |
| 本時の目標  | (1) 人口密度の高い地域が世界のどこに分布しているのか考察し、ほとんどが温帯であるが、アジア地域では特異的に熱帯地域であることに疑問を持ち、その理由について関心をもつ。【関心・意欲・態度】<br>(2) アジアにおいて人口密度が高い地域はモンスーンが卓越している地域に重なることを理解し、その地域における地域的文化的考察をする。【思考・判断】  |   |                              |
| 指導のねらい   | 学 習 活 動   | 指導上の留意点・観点別評価   |                              |
| ・世界の人口分布の概略を見る。  | ・人口の多い国を答える。(上位5カ国程度)   | 地図帳で探させ、挙手等で自由に発表させる。   |                              |
| ・人口分布の不均一性を知り、その理由を考察する。<br>10分  | 分布図から人口稠密地域を読み取る。(その1)<br>Question 1<br>人口密度が高い地域は何処に分布しているだろうか。<br>S : 地中海沿岸地域から西ヨーロッパ<br>北アメリカ北東部<br>中国東部から日本<br>インドから東南アジアなど<br>人口稠密地帯の特色を自然環境と生産様式から考察する。<br>Question 2<br>それぞれの地域の人口密度が高い理由を考える。<br>S : 温帯で先進工業地域<br>温帯で先進工業地域<br>温帯で先進工業地域<br>熱帯で農業地域                               | Q1...地図帳から人口密集地帯はどこか考える。【関】<br>評価方法<br>発問・挙手・発言   | 資(1)<br>注(1)<br>注(2)<br>注(3) |
| ・人口を多く支持するための要因を考察する。<br>25分   | 分布図から人口稠密地域を読み取る。(その2)<br>Question 3<br>インド以外の熱帯地域の人口分布の状況はどうなっているか。(インドと同緯度地域についても考える)<br>S : ギニア湾あたりに少し人口密集地がある。<br>ビルマ、タイ、カンボジア、インドネシアに人口集中地域がある。<br>その他は人口稠密地域は見られない。<br>インドと同緯度地域ではほとんど人口集中地域は見られない。(ナイル川と華南に人口密集地がある)   | Q2...人口密度が高い地域の特性を考察する。【思】<br>評価方法<br>発問・挙手・発言<br>Q3...人口密度が高い理由を考えさせ、の特異性を掴ませることを目的に発言させる。<br>インド・東南アジアの人口が他の熱帯と比較してどうして多いのか不思議に感じさせることができるかがポイントである。【関】           | 注(4)                         |
| ・熱帯地域を分析し多くの熱帯地域では人口希薄となっているが、東南アジアとインドが例外的であることに気付かせる。<br>・熱帯で人口密度の高い地域の特徴を考察する。<br>45分 | インドと東南アジアに多く分布しているものを探することで、熱帯の自然環境は生活するのに適していないのに、どうしてインドと東南アジアでは多くの人口を支えることができるのか考察する。<br>Question 4<br>人口密度の分布に似た分布図を探そう。<br>S : 世界の気温と降水量<br>特に7月の降水量<br>土地が水浸しになるような環境で、そこに住んでいる人々は何を生活しているか考察する。<br>Question 5<br>夏降水量が多いことを考慮して、どのような理由でアジアの人口集中地域が形成されているのか考えよう。<br>S : 稲作を行っている。 | 評価方法<br>発問・挙手・発言<br>Q4... 人口稠密地域と7月の降水量の分布がよく似ていることを掴ませる。<br>地図帳 p77~90にある分布図から人口分布に似たものを見つけさせる。【関】<br>評価方法<br>発問・挙手・発言<br>評価方法 人口密度が高いことに対する授業後のミニ論文をプリントに書かせる。【思】 | 資(2)                         |

|            |   |                 |
|------------|---|-----------------|
|            | 稲作の特徴について、畑作と比較しながら連作ができることや長江流域では古くから栽培されていたことなどを理解させる。                                      |                 |
| まとめ<br>50分 | モンスーンによる十分な降水が沖積低地をつくり、また湿地性のイネの栽培を可能としている。熱帯アジアにおいて、モンスーンが人口稠密地域を形成させる Keyであることを、日本の稲作で確認する。 | ・日本の水田について例示する。 |

< 指導上のポイントと考察 >

・単元の垣根を超えた視点を持ち、知識と知識をつなぐ力を育てることをねらいとしている。そして、生徒がおもしろいと感じる内容となるように次の点を考慮した。尚、授業の構成においては、岐阜大学の野元世紀先生から指導を頂いた。

(1) 人口の多い国々と日本の人口密度を調べることにより授業参加のきっかけとする。  
人口が多い国と人口密度が高い国はその持つ意味が異なっている。この授業では人口密度をもとにして展開する。  
どういう環境が多くの人を支えることができるのか、多くの人が生きていくための要因を考えるのに人口密度が適した尺度といえる。

(2) 人口が多いことや人口密度が高いことは暗いイメージがあることをこの授業で覆すことを試みた。人口の学習では人口が多いことは貧しさと結びつくため良くないことと認識されていないだろうか。ところが、ある地域が多くの人を支えるためには、それなりの基盤が必要である。また人間がある地域に住み続けることが出来るのはそこには特別な理由があるといえる。発展途上国においては人口増加が問題となり、人口が多いことが悪いこととされているが、それが正しいとはいえないかもしれない。

人口が多いことはすぐれた文化である。その文化を解明することをこの授業の課題解決学習としたい。

ところで、授業のおもしろさは、スポーツのおもしろさと共通することがあるのではないだろうか。それは9回ツアーアウトランナー無しからの逆転勝ちのような筋書きのないドラマであり、そのことを、ベテランのある先生は、「生徒の予想を超えたところに結論があることに授業のおもしろさがあり、生徒の興味・関心が生まれる。理路整然としたストーリーは聞いていて納得は出来るが面白みに欠ける。授業においては、生徒の予想を覆すところに醍醐味がある。彼らの予想と学習内容とのギャップが大きければ大きいほど生徒はおもしろかったと感ずる」と指摘している。今回の授業で、人口が多いことは良くないことというイメージを持つ生徒に、人口が多いことの意味を考えさせることでおもしろさを伝えることをポイントとして実践した。

(3) 本校で使用している教科書において、それぞれの単元は次のように構成されている。

|             |               |                   |
|-------------|---------------|-------------------|
| 「人口」        | 「気候」          | 「農業」              |
| 世界の人口分布     | 世界の気候環境       | 世界の農業地域           |
| 世界の人口移動     | カリマンタン島の自然と生活 | タイの稲作農業           |
| インド・中国の人口問題 | サハラ砂漠の自然と生活   | 国際化・情報化の進展        |
| スウェーデンの人口問題 | シベリアの自然と生活    | アメリカ合衆国の穀物農業      |
|             |               | フィリピンのバナナプランテーション |

従来の系統的地理の学習においては、気候と人口は「人間と環境」の単元において学習し、農業は「生活と産業」の単元で順に学ぶことになる。この授業では、インド（東南アジア）を地誌的にとらえることによって、二つの単元の垣根を越えて課題を考察することをねらいとしている。

< 単元「世界の人口問題」の指導計画（全4時間） >

- 1 時間目 「世界の人口分布」（本時）
- 2 時間目 「世界の人口移動」
- 3 時間目 「インド・中国の人口問題」
- 4 時間目 「スウェーデンの人口問題」

注(1) 生徒の一人一人の意見を認め、十分に彼らの考えを引き出すことに心がける。

注(2) 地図帳で場所を確認する。生徒の実態を考慮して地名は地図帳で確認することを習慣づける。

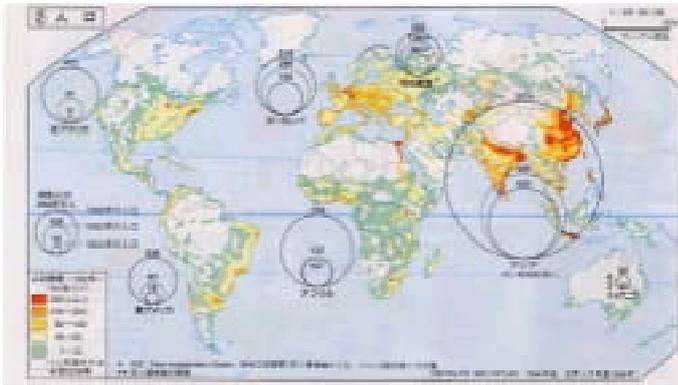
注(3) 人口が多いことに対する生徒の持っているイメージについて

- ・プラス面 人がたくさんいるのは栄えていることなので、ほしいものが何でもある。  
日本の東京、大阪などの都市は、地方より進んでいる
- ・マイナス面 都市に人が集まりすぎてスラム街ができています。  
人口が増えているのは発展途上国  
環境が悪い（スラム街のあるところ）  
犯罪が多い（治安が悪い）

注(4) の地域の人口密度が高い理由を、 の地域の人口密度が高い理由を、 というように対応関係を持たせている。

資(1)人口密度の分布図

- ・新詳高等地図（帝国書院）p83の人口密度の分布図は人口の地域的差異が分かりやすい。
- ・新高等地図（東京書籍）p15の人口分布図は1点10万人のドットマップとなっている。また世界地図に気候帯が着色してあるので、本授業には都合がよい。



帝国書院の地図帳



東京書籍の地図帳

資(2)世界の気温と降水量

- ・新詳高等地図（帝国書院）p79には、世界の全年 1月 7月の降水量の分布図が掲載されている。どの図も同様に見えるが、1月の降水量の分布図は、インド付近を注目した場合この時期は乾季にあたりほとんど降水がないので、7月の降水量の分布図が最適といえる。

